雲南市行財政改革

「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」の実現に向け

聖域を設けず 計画的に 市民に公表しながら 全庁を挙げて 決断力をもって 取り組みます。

12月19日、第2回雲南市行財政改革推進会議が木次総合センターで開催されました。

当日は、市長から推進会議に対し、市の行財政改革について諮問（意見を聴く）が行われました。

会議では、市の担当者から、今後、市が行財政改革に取り組んでいく上での指針となる**①行財政改革大綱の素案の説明と、②指定管理者制度の導入、③第三セクター事業等マネジメントの基本方針、④枠配分予算編成方式の導入及び職員等の人件費削減などの個別課題の取組状況の説明**があり、行革大綱素案を中心に各委員から多くの意見が出されました。

今後さらに議論を進め、パブリックコメント（政策の立案する際、その案を公表、この案に対して広く市民等からの意見を募集する）での意見等を踏まえて推進会議としての意見をまとめ、2月中に市長への答申が行われる予定です。

写真は第1回会議の様子

行財政改革推進委員

（敬称略・順不同・◎会長・○副会長）

◎保母武彦、○笠井耕助、○吉原一文、笠松浩樹、小山義弘、中澤典子、小田川美由紀、須山光子、半田宏平、佐藤　季

行財政改革推進委員から の意見要旨

◆**基本方針の中で**、解決すべき課題をもっと明確にすべき。何が問題か、どこが悪いのかが不明確なため、市民にとってはなかなか自分のこととして捉えにくいのではないか。

◆**こういう課題**があるから、それを解決するために新しい仕組みをつくるという問題解決型の方がよいのではないか。理念からよりも現状から始める方がよい。

◆**ストレートに課題を出すべき**。合併していろいろな問題を抱えている。広大な面積、職員の人数や給与、第三セクターなど、もっと具体的に分かりやすくすれば、ああ、そんなに苦しいなら我々も努力しようということになるのではないか。あれもこれも書いてあるから分かりづらい。

◆**職員数や給与**などについて同規模の他市との比較が必要。雲南市だけの話では真のことがわからない。標準レベルとか基準をしめす必要がある。

◆**事業者にとって**、自分がした仕事に対する報酬が得られないことは非常にきつい。給与の減額について職員がどのように受け止めているのか知りたい。市の職員として痛みを伴いながらも市民サービスを続けていくことをどう考えているのか。

◆**民間企業に比べて**、行政はまだまだ改革の痛みが不足しているのではないか。職員一人ひとりが危機感を持ち、意識改革を行うことが大切。10万円あるいは100万円を使って何をしたら市民に本当に喜んでもらえるかということを真剣に考えなければいけない。民間企業であれば、どうすれば商品が売れるのか、その手段を真剣に考える。

◆**給与の減額**は生活に関わる大変なこと。しかし、中央と地方、大企業と中小・零細企業、当然のこととして民間においては格差があるが公務員にはほとんど無い。他市で問題になった互助会への公費支出や職員駐車場の料金徴収など雲南市の状況が市民にはわからない。雲南市はこうなんですよと積極的に公表することで一体感が生まれる。

◆**行政側**はいろいろな手段・機会を通じて情報を公開しているつもりでも、実際は思っているほど市民に伝わっていないことが多いのではないか。自己満足で終わっている面がある。

◆**情報公開**については、市民が自ら情報をとる姿勢がないときりがない世界。いくらペーパーをたくさん配っても読まないものは読まない。市民との接点をつくること、そういう仕組みづくりが大事。

◆**行政の職員**が批判の矢面に立っているが、我々サービスを受ける側の市民も考え方を変えないといけない。行政サービスは、使用料など利用者の直接負担だけではなく、市民全体で税金により間接的に負担していることを認識し、市民もサービスの質やあり方、負担の公平性について考え、市民レベルの発想の転換をしていく時代になっている。

◆**素案の内容は行政の本来の姿**。今、あらためて理想として掲げなければならないのはなぜか、今まで市民と行政に何が足りなかったかを考える必要がある。「おんぶにだっこ」で行政に任せておけばよいという住民側の考えもあったし、行政は、「ここまでしてやっているからそれ以上言われることはないだろう」というような考えもあったのではないか。

◆**「協働」**とはどういうものなのか、そのためにはどうしたらいいのか、市民も職員ももっと考えなければいけない。

◆**市民としては**予算編成の時点で参画できないかという思いがある。これからは市民が自らの地域の活性化に参画することが必要。予算が決まるまでのところで市民に考えてもらうような仕組みをつくる必要がある。鳥取県では予算編成の段階から情報公開している。

◆**枠配分予算編成**は新しい試みとして評価するが、悪く言えば密室会議で決まるのではないかという心配な部分もある。何でもかんでも金がないから出来ないで済まされるということにならないか。市民の意見を聞き、真に市民が必要としているものが選択されるべきであり、編成過程の透明性の確保が必要。

◆**改革を進める上では**、市民参加による行政評価が大事。評価して良い点と悪い点が明確になるような制度をつくらないと問題は解決しない。

◆**事業の選択に際して透明性をもって**市民の意見を反映し、そして結果についても市民参加により事後評価できる制度をつくることが大事。中には一生懸命良い案だと思ってやっても失敗することもあるだろうが、一切失敗するなと言えば、みんな縮こまって何もやらない。前向きで失敗するのは仕方が無い。事後評価をきちんとやっていけば定着していくのではないか。

雲南市行財政改革大綱の概要図

社会環境の変化

- 地方分権型社会への移行
- 少子・高齢化の進行
- 市民活動の活発化
- 環境重視社会への移行

厳しい財政状況

- 構造的な収支不足
- 税財政制度改革による地方への影響
- 社会資本整備に伴う公債費負担の増

合併による 雲南市のスタート

- 新しいまちづくりに向けた改革のチャンス
- 合併後の市政の早期一本化

社会環境の変化、厳しい財政状況への対応のために新しい行政の仕組みづくりが必要

「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をめざし、住民と行政が協働するまち

雲南市行財政改革大綱

基本方針

「市民が主役の自治」を理念とし、新しい行政の仕組みをつくります

- 情報公開を徹底します
- 将来に責任を持つ市政運営を進めます
- 地方分権を推進します

改革の5つの柱

市民との協働によるまちづくりを進めます

①情報公開を徹底します
②市政への市民参加を進めます
③市民活動を支援します

市民本位の視点でサービスを見直します

①市民の視点でサービスを見直します
②市民サービスの質を高めます
③わかりやすい事務手続に改善します
④公共施設のサービス向上を図ります
⑤外部委託を進めます

適正な財源確保に努め、将来に向けて継続可能な財政運営を行ないます

①市税等の歳入を確保します
②地方債の借入を抑制します
③受益者負担の適正化を進めます
④内部管理経費を徹底して削減します
⑤施策、事業及び補助金等を見直します
⑥効果的かつ自律的な予算編成方式を確立します
⑦公営企業及び特別会計の健全化を図ります

時代の変化に対応できる行政の仕組みをつくります

①行政評価制度を導入します
②総合行財政システムを確立します
③組織機構の見直しと定員管理の適正化を進めます
④公共施設の適正配置について見直しを進めます
⑤第三セクター等の見直しを進めます
⑥広域行政への取り組みを進めます
⑦電子市役所への取り組みを進めます

人材育成を進めます

①市民に信頼される職員をめざします
②接遇日本一をめざします
③課題に柔軟に対応できる人事制度をつくります
④給与制度を見直します
⑤風通しのよい職場環境をつくります

聖域を設けず　計画的に　市民に公表しながら　全庁を挙げて　決断力をもって　取り組みます